

チャレンジ！！オープンガバナンス 2021 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No.	タイトル	自治体名
	13-7-2	文京区における食品ロス問題とその啓発方法について	文京区
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	文京区の特徴を生かした食品ロス対策～共同住宅に注目して～		

（注1）地域課題タイトルは、COG2021 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	お茶高食品ロス班		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	3	
メンバー数（公開）	3 名		
代表者情報	鎌野 咲		
メンバー（公開）	中山 百合香 伏本 柚香		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2021_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2021 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2021@pp.u-tokyo.ac.jp

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイザーの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認 ○

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、**何を**する社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、**魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたい**なる、そしてその結果として、課題が解決される、そんな**わくわく感のあるアイデア**を期待します。**2ページ以内**でご記入ください。

＜応募チームとして**解決したい課題の要点**はこれ！をごく短く書いてください＞

貧困で食料を手にできない人がいる一方で、食品ロスが大量に出ている問題を解決したい。食品ロスの量は、年間約 600 万トン（農林水産省）という高い水準である。私たちは“全国一律の対策”を行うのではなく、“地域の特性に合った対策”を講じることで、食品ロス量を減らし、必要な人に分配できるのではないかと考えた。

＜この課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いてきます＞ <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

＜よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です＞

アイデア：共同住宅における食料共有スペースの設置

概要 各世帯で余った未開封の食料を共同住宅の集会室において、住民間で共有したり、必要な人に NPOI を通じて分配したりして、食品ロスを減らす。いわば※区のフードドライブの共同住宅版である。これは、フードドライブのことを知らない人、またはフードドライブに参加することには消極的だが食料を余らせてしまう人などに有効である。自分の暮らす場所で行われていれば、より食品ロス対策を身近に簡単に実践することができる。※区のフードドライブ：文京区では、食品ロスの削減と資源の有効利用のため、リサイクル清掃課窓口での回収やイベント回収のほか、区内在住で、食品をリサイクル清掃課へ持参することが困難な方向けの自宅訪問受取サービスを行っている。集まった食料は NPO や文京区社会福祉協議会を通して必要とする人へ届けられている。

対象とする共同住宅

集会室など「食料共有スペース」が設置できる
100 世帯程度の共同住宅（区内に 100 ほど）

運営方法

- ①各家庭で余った食料を「食料共有スペース」に置く。
- ②右のような表に必要事項を記入する。
- ③-1 住民が欲しい食材があったら表に記入してもらう。
- ③-2 一週間に一度程度、ボランティアが回収する。

④-2 賞味期限ごとに食料を分け、NPO セカンドハーベスト・ジャパン及び文京区社会福祉協議会を通して子ども食堂やこども宅食 (<https://kodomo-takushoku.jp/>) へ寄付する。寄付する食料は下記参照。

こども食堂：賞味期限が 2 か月以内の食料

こども宅食：賞味期限が 2 か月以上の食料

(こども宅食上記 URL より)

置いて良い食料について

置いて良い食料は文京区でのフードドライブでの取り組みに準じ



食料共有スペース 管理表

(おりに来た人)
下の表に必要事項を記入し、食料を置いてください。
(もらいに来た人)
下の表に必要事項を記入し、食料をもらってください。
用種の食料があった場合は、消費期限や賞味期限の
正しいものからもらってください。

(ボランティアの人)
回収した食料については、下の表にイを記入してくだ
さい。

置いた日付	置いたもの	置いた人	消費期限	賞味期限	もらった日付	もらった人	NPO(✓)
2021.4.1	味付け海苔 1 箱	201 号室 山田花子		2022.5.6	2021.4.3	330 号室 南田次郎	
2021.4.9	〇〇焼/〇1 個	303 号室 佐藤美子	2021.4.15				✓

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

る。

※文京区でのフードドライブとの違い

・賞味期限が近いものでも利用可。（フードドライブは賞味期限が2か月以上あるものに限定されている。）

置いて良い食料	置いてはいけない食料
・缶詰 ・インスタント食品 ・レトルト食品 ・乾麺 ・米 ・パン ・調味料 ・お菓子 ・常温で保存可能な野菜 ・乳幼児食品 ・健康食品 ・防災の備蓄品 など 常温で保存可能な未開封 の食材。 賞味期限、消費期限については過ぎていなければ指定はない。	・肉 ・魚 ・冷蔵食品 ・冷凍食品 ・開封済みの食品 ・飲料 ・常温で保存不可能な野菜 ・賞味期限、消費期限の不明な食品、期限を過ぎていた食品 など。

ボランティアについて

共同住宅の住人だけでなく、文京区は学校が多いという特徴を活かして大学生に協力を仰ぐ。また、文京区内にある NPO 団体に協力してもらう。お茶高の卒業生のネットワークを活用し、お茶の水女子大学の学生にも協力を仰ぐ。

費用について

住民が利用する場合、支払いは発生しない。

期待される副次的な効果

住民間での食料の共有を通して、住民間の顔の見える交流が増え、コミュニティの形成につながると考えられる。

住民間の交流を増やすことは減災・防災にもつながると考えられる。

広報活動について

①ポスターの作成



↑新ポスターのイメージ（共同住宅向け）

現在、区で発行している「ごみダイエット通信」を、学生の視線で、もっとなじみやすいものに改良する。

配布方法を配架から、大学・対象の共同住宅・NPO にポスター掲示する方法に改良する。

大学・NPO にはボランティア募集のポスターも掲示する。共同住宅には広く周知するためのポスターを掲示する。

②SNS の活用

・Twitter を利用する→大学生 ・高校生にもっと関心をもってもらう

③高齢者に向けて

・回覧板や区設掲示板でのポスター掲示（区から町内会、自治会へ通達してもらう）

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由（なぜ）について、それを**サポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内**で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかを上記のデータを示しつつ書いていきます>

I. このアイデアを提案する理由

①食品ロスの現状について（日本）

現在、日本では飢餓経験率が9.2% (<https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2021/01/post-95508.php> Newsweek 飽食ニッポンで「飢餓」経験者が急増している)、また、相対的貧困率も約16%と先進国35か国中7番目に高い。
(<https://www.oecd.org/economy/surveys/Japan-2017-OECD-economic-survey-overview-japanese.pdf> OECD 経済審査報告書日本 April 2017年)このように、豊かに見える日本もまだまだ食料不足に悩む人々が多くいることがわかる。

年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
全体	642	632	621	646	643	612	600
事業系	331	330	339	357	352	328	324
家庭系	312	302	282	289	291	284	276

(単位：万トン)

(<https://www.maff.go.jp/j/press/shokusan/kankyoi/attach/pdf/210427-4.pdf> 農林水産省 食品ロス量の推移(平成24~30年度)より作成)

H.30時点で日本では600万トンの食品ロスを出しており、これは世界食糧基金による世界全体の食料援助量の約2倍にあたる。
(<https://www.env.go.jp/recycle/food/shiryuu.pdf> 食品ロスを減らすために、私たちにできること環境省)

現在行われている対策は、(https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/information/food_loss/efforts/#investigation 消費者庁食品ロス削減に向けた取組について)

・キャンペーンや啓発活動 ・余った食品の寄付 ・会議、意見交換会、コンテストなど

地方自治体ごとの活動は、啓発活動や教育活動が主で、対策方法は毎年同じで変化がみられない。

(https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/information/food_loss/efforts/assets/consumer_education_cms201_20210628_01.pdf 消費者庁令和2年度地方公共団体における食品ロス削減の取組状況について)

表から分かるように、食品ロス量の減少はあるものの大きな変化は見られない。これは、**現在の対策では食品ロス量を減らすことはできないということを示している。対策方法を見直し、地域に合わせた対策を考えるべきなのではないか。また、啓発活動の限界を示しているだろう。新たな啓発活動以外の方法も取るべきではないか。**

②食品ロスの現状について（文京区）

2014年度の文京区の未利用食品(賞味期限切れ、未開封、開封残り)の量は1257トン(=可燃ごみの総量(トン)×可燃ごみ中の割合)であり、

2019年度の文京区の食品ロス(直接廃棄(手つかず)、直接廃棄(使い残し)、食べ残し)の量は2937トン(=可燃ごみの総量(トン)×可燃ごみ中の割合) (https://www.city.bunkyo.lg.jp/var/rev0/0095/1489/kisochosa_hokokusho.pdf 文京区一般廃棄物処理基本計画中間年度見直しに係る基礎調査報告書平成27年3月、
https://www.city.bunkyo.lg.jp/var/rev0/0198/0607/2019kisochosa_hokokusho.pdf 文京区一般廃棄物処理基本計画改定に係る基礎調査報告書令和2年3月より作成)

であり、同じ項目ではないが類似した項目を参照すると増加している可能性が考えられる。

文京区での主な対策としては、(インタビューより)

・啓発活動 ・飲食店での食べきりの推奨 ・フードドライブの実施 ・ワークショップ開催
・講演会 などであり、全国のほかの地域と同じような対策を講じている。

また、文京区では啓発活動としてチラシを発行しているが、主にこれらの配布方法として区有施設での配架をとっており、**そのチラシやチラシ内容（フードドライブや食品ロス対策）についての認知度は高いものでも11%ととても低くなっている。文京区でも啓発活動はあまり効果を発揮していないことが分かる。しかし、認知度は低いものの、フードバンクについての利用の意向調査で利用したことがある・今後利用したいと考えている人が約4割とな**

っており、フードドライブへの潜在的なニーズがあることがわかる。（インタビュー、文京区一般廃棄物処理基本計画（モノ・プラン文京）【令和3年度～令和12年度】より）

II. 「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのか ～なぜ共同住宅に注目したか～

③文京区の特徴

私たちがみつけた文京区の特徴は居住形態、1世帯当たりの人数、NPOや大学の数である。

	全国	文京区	東京都
居住形態 (共同住宅世帯数：戸建て世帯数)	約4：6	約8：2	約7：3
1世帯当たりの人数（人）	約2.27	約1.85	約1.95

(https://www.city.bunkyo.lg.jp/var/rev0/0212/7646/53_bunkyonotoukei.pdf 文京の統計, <https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka/pdf/outline.pdf> 令和2年国勢調査人口速報集計結果 全国・都道府県・市町村別人口及び世帯数結果の概要, https://www.stat.go.jp/data/jyutaku/2018/pdf/g_gaiyou.pdf 平成30年住宅・土地統計調査住宅数概数集計結果の概要より作成)

上の表より、文京区は全国、または東京都と比べて、共同住宅に住んでいる世帯数が戸建てに住んでいる世帯数よりも多いという文京区ならではの特徴があることが分かった。他の都道府県とも比較してみたが、共同住宅に住んでいる世帯の方が多地域の方が少ないということが分かった。

このことより、**文京区では共同住宅に住んでいる人に対して働きかけを行うことで、文京区にあった食品ロス対策を講じることができるのではないかと考えた。**

また、上の表より1世帯当たりの人数も全国、東京都と比べて少ないということが分かった。

これらのことから、文京区には“共同住宅に住んでいる、かつ一人暮らし”、という人が多いという仮説を立てた。感覚的にも正しいと考え、文京区での1世帯当たりの人数の居住形態による差を調べたところ、

共同住宅では 151490（共同住宅に住む人数）÷ 93632（共同住宅に住む世帯数）＝約1.6人

戸建てでは 62274（戸建てに住む人数）÷ 25221（戸建てに住む世帯数）＝約2.4人

(https://www.city.bunkyo.lg.jp/var/rev0/0212/7646/53_bunkyonotoukei.pdf 文京の統計より算出)

となり、**文京区では“共同住宅に住んでいる、かつ一人暮らし”世帯が多いことが確かめられた。**

このような文京区に多く見られる世帯で考えられる食品ロス発生過程としては以下のようなものが考えられる。

①食品を買いすぎてしまう、または作りすぎてしまう ②それらをシェアする相手がいない ③食品ロス発生

シェアをする相手がいればこのような食品ロス発生は防げるだろう。そこで、共同住宅における食品ロス対策に着目し、食料共有スペースを提案した。

また、管理についても文京区の特徴を活かす方法を考えた。文京区では、**NPOや大学生が多く**（NPO数5位、大学数3位、どちらも東京都23区内）（内閣府NPOホームページ <https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/>、東京都の統計令和2年度 学校基本統計（学校基本調査報告書）(1)学校数、学生数、教員数及び職員数 <https://www.toukei.metro.tokyo.lg.jp/gakkou/2020/gk20qg10000.htm#daigaku>）これらの人に協力を仰ぐことを考えた。

余剰効果については、共同住宅に住む人の特徴として、近隣住民への関心や地域への帰属意識が低いことが分かった。（<https://www.usp-tmu.jp/archivepdf/docs/12-07.pdf> 集合住宅居住者の心理特性－居住環境と対人関係を中心として－本間道子）そのため、災害が起きても、共助が行えない可能性がある。しかし、食料共有スペースを通して近隣住民への関心や地域への帰属意識を育てることができれば、この課題も解決するのではないかと。実際、東日本大震災において、地震発生前から活発に活動していた分譲マンションでは自治会や防災組織、高齢者組織が中心となって、地震後に活動可能なメンバーが集まり、柔軟に対応したことが明らかになった。（村田明子 東日本大震災での分譲マンションにおける組織的活動と共用施設・設備の活用－高層マンションにおけるLCP(Life Continuity Planning：生活継続計画)の観点から https://www.shimztechnonews.com/tw/sit/report/vol89/pdf/89_008.pdf）

広報活動については、I②でも述べたように食品ロスに関する認知度は低い。そのため、デザインや広報活動の方法について改善すべきと考えた。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまず＞

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1, 私たち三人を中心にお茶高の卒業生、お茶大生の有志、ボランティア

文京区の食品ロス対策を行っている部署では人手不足だそうなので、私たちとボランティアでアイデアを練ったり、実際に行動したりして、それを監督する立場として文京区を想定。

2, クラウドファンディングにより調達 ※アからカは下の表と同

(ア) デモンストレーション参加共同住宅/ボランティアの大学生の募集（一か月ほど）

- ・実現する主体…私達、文京区
- ・具体的な内容
 - ・対象となる共同住宅に募集の通知を管理会社や管理組合を通して出す
 - ・参加したい共同住宅の代表者は、住民の理解を得て、管理会社や管理組合を通して参加の意思を区に伝える
 - ・複数の共同住宅からの応募があった場合は、一つに選ぶ
 - ・ボランティア参加したい人は、大学や NPO での掲示で募り、参加の意はネットを通して文京区に伝える
- ・必要な人材とその集め方…私達と文京区であるため、特に新たに集める必要はない
- ・必要な経費…大学掲示（一か月）約 5 万円×主要 5 大学 + NPO に掲示 0 円 5 枚ほど
= 25 万円 + 印刷費（別途記載）

(イ) 全体設計 & 環境整備

- ・実現する主体…私達、文京区、デモンストレーションに参加する共同住宅の代表者、ボランティア
- ・具体的な内容
 - ・デモンストレーションに参加する共同住宅に合わせて、「食料共有スペース」をアレンジする
 - ・必要なものを調達
- ・必要な人材とその集め方…（ア）の段階で必要な人材はすべて集まったので新たに集める必要はない
これは、（カ）まで同様
- ・必要な経費…必要なものの調達 紙代（管理表など）3 千円 = 3 千円

(ウ) 一か月おきに報告

- ・実現する主体…私達、デモンストレーションに参加する共同住宅の代表者、住民、文京区、ボランティア
- ・具体的な内容
 - ・「食料共有スペース」を使用する中での不都合などを住民から集め、代表者が区に伝え、区やボランティアと連携して改善策を練る
- ・必要な経費…必要に応じて

(エ) 対象となる共同住宅に募集を通知

- ・実現する主体…私達、文京区、ボランティア
- ・具体的な内容
 - ・対象となる共同住宅に（ア）と同様に、管理会社や管理組合を通して募集をする

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

- ・その際、特に理由がなければ参加してもらうように働きかける
- ・参加、不参加を住民の理解を得たうえで管理会社や管理組合を通して区に伝える

・必要な経費…必要に応じて

(オ) 広報活動

・実現する主体…私達、文京区、ボランティア

・具体的な内容… ・(1) アイデアの内容（公開）に記述したような方法で広報活動を行う。

・デザインなどは私達やボランティアの意見を取り入れつつ、様々な人が読みたくなるようなサンプルかつ分かりやすいものを目指す。

・広報活動の主なターゲットは、対象となる共同住宅に住む住民である。

（（エ）の段階で、住民の理解を得られずに不参加となることを防ぐため）

・高齢者に向けて、回覧板や区設掲示板にポスターを掲示

・SNS(Twitter)での広報活動（アカウント作成）

・必要な経費…ポスター150枚の印刷費＝別途記載

※印刷費（ア）～（オ）までの過程で必要となる印刷費は約1.5万円である。

(カ)クラウドファンディング

・実現する主体…私達、文京区、ボランティア

・具体的な内容…必要になると思われる経費を目標に長期にわたって行う。

・必要な経費…クラウドファンディングサイト「READY FOR?」の場合、集まった金額の17%を手数料として支払う。合計金額は

（ア）～（オ）＋印刷費の合計金額＝25万円＋3千円＋1.5万円＋予備費＝30万円

手数料はクラウドファンディングサービス「READY FOR?」では12%かかるので目標金額は

30万円÷0.88＝約35万円（手数料＝35万円×0.12＝約4万円）

実現に至る時間軸を含むプロセス

年度	目標	やるべきこと		長期行うこと
2022	全体設計	①デモンストレーション参加共同住宅/ボランティアの募集…(ア)（ボランティア…文京区に居住、または通学している大学生。） ②学生団体 VONSさんと連携したい ③全体設計&環境整備…（イ）		広報活動…(オ) クラウドファンディング…（カ）
2023	デモンストレーション	1 デモンストレーション開始	I.住民への説明 II.「食料共有スペース」設置 III.「食料共有スペース」使用開始 IV.一か月おきに報告…（ウ）	
		②対象となる共同住宅に募集を通知…（エ）		
2024以降	実施&改善	最初の一年は、半年ごとに報告 次年度からは1年おきに報告		

費用算出に参考にしたサイト

https://raksul.com/print/poster/indoor/offset/prices?size=A3&color=ONE_SIDE_COLOR&paper=COAT&weight=135&amount=11000&business_day=1 ラクスル屋内用オフセット A3サイズのポスター印刷料金表

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

<https://bizpa.net/mag/keyword/college-student/> 大学生向け広告の種類や効果を徹底解説 | 『学食トレイ広告』や『学生発行のフリーペーパー』など媒体多数
BIZPA

<https://readyfor.jp/proposals/intro> 寄付を募るなら READYFOR